

レジオネラ肺炎と一般的な肺炎の違い

全国的に温浴施設や宿泊施設、高齢者福祉施設などでニュースとなっている「レジオネラ属菌」。レジオネラ属菌は、自然界(河川、湖水、温泉や土壌など)に生息している細菌で、感染するとレジオネラ症を引き起こします。レジオネラ症には、病型として重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」があります。

今回はレジオネラ肺炎に注目し、一般的な肺炎とどのような違いがあるのかまとめてみました。

	レジオネラ肺炎 (レジオネラ症)	細菌性肺炎	ウイルス性肺炎
原因	レジオネラ属菌(細菌)	肺炎球菌、インフルエンザ菌、マイコプラズマなど(細菌)	インフルエンザウイルス、RSウイルス、アデノウイルスなど(ウイルス)
感染経路	汚染された水(循環式浴槽、加湿器、シャワーヘッド内部、冷却塔等)の微粒子を吸入 ヒトからヒトへはうつらない	飛沫感染、接触感染 ヒトからヒトへうつる	
主な症状	38℃以上の高熱、激しい咳、呼吸困難、強い倦怠感など		
診断	培養、尿中抗原検査(尿検査)、遺伝子検査、血液中の抗体検査	迅速抗原検査、培養、遺伝子検査、尿中抗原検査(尿検査)、血液中の抗体検査	迅速抗原検査、遺伝子検査
痰の特徴	オレンジ色やピンク色の痰が出ることもあり	黄色～緑色の膿性痰	透明、白色、粘り気が少ない
予防	家庭内:浴槽の清掃、換気、加湿器の清掃等 施設内:貯水槽の水温管理(60℃以上)、残留塩素の管理、バイオフィルムの除去	日常対策:手洗い、マスク着用 予防接種 健康管理:バランスのとれた食事、睡眠、適度な運動	



レジオネラ肺炎と他細菌性肺炎・ウイルス性肺炎を比較してみると、主な症状は一緒ですが感染経路や予防方法に大きな違いがあることがわかります。厚生労働省「循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策マニュアル」では、浴槽の管理として、ろ過器を使用していない浴槽水及び毎日完全に換水している浴槽水は1年に1回以上、連日循環・使用している浴槽水は1年に2回以上の検査が求められています。

厚生労働省「循環式浴槽におけるレジオネラ症防止対策マニュアル」 <https://www.mhlw.go.jp/content/11130500/001402075.pdf>

弊社では、レジオネラ属菌検査に加え、浴槽水や飲料水、プール水、温泉成分分析などの検査も受託しております。詳しい内容につきましては、お気軽にお問い合わせください！



KHL 株式会社 九州保健ラボトリー
Kyushu Hoken Laboratory

<http://www.kyuhoko.co.jp>

鹿児島事業所

鹿児島県鹿児島市小野二丁目15番2号
TEL099(218)3636 FAX099(218)3553

福岡サテライト

福岡市博多区井相田3丁目5番10号
TEL092(404)5455 FAX092(404)7015



<http://www.kyuhoko.co.jp>